

能登空港賑わい創出事業の取り組み概要

能登空港賑わい創出実行委員会
(事務局：石川県奥能登総合事務所)

◆能登空港の概要

能登空港は、石川県能登半島のほぼ中央に位置し、平成15年に開港した地方管理空港(石川県管理)で、能登(9市町)の人口は約22万人で過疎化が進んでいる地域です。定期便は能登・羽田間1日2往復の4便で搭乗者数は年約15万人、その他に国際チャーター便(1.2万人)や日本航空学園機、プライベート機などが離発着しています。

- ・平成20年度の飛行機着陸及び離陸実績(日本航空学園機のタッチアンドゴー訓練を含む)：
年約6,200回、1日平均17回、1日最大123回
- ・1日当たりの着陸及び離陸回数別日数()は1年に占める率：
10回以上の日…173日(47%)、20回以上…115日(31%)、30回以上…79日(21%)
40回以上の日…41日(11%)、50回以上…25日(6%)、60回以上…6日(1%)

◆能登空港の姿勢と事業展開

空の玄関としての役割にとどまらず、能登地域振興の拠点としての機能を果たせるよう、県、地元自治体、住民が協力し合いながら様々に活用しており、従来型の空港にとらわれず、地域のために使う新たな取り組みを積極的に行っています。

①定期便利用促進事業

定期便の搭乗率保証制度の導入【全国初】、2次交通乗り合い式「ふるさとタクシー」の運行【全国初】
ぶらり能登キャンペーン、能登空港冬期キャンペーン など

②能登空港を核とする利活用事業

- ・空港ターミナルビルと行政庁舎の合築【全国初】
(能登の防災、農林、土木、教育の拠点、広域的な会議の場、能登の観光情報発信)
- ・空港を「道の駅」に登録(自動車客の利用)【全国初】
- ・日本航空学園の誘致
- ・能登空港賑わい創出事業(H18年度から実施) など

◆能登空港賑わい創出事業の目指すこと

目的は、「能登空港及びその周辺での賑わいを創出する事業を通じて、能登地域の住民が“自分たちの空港”であるという意識を醸成し、もって能登空港における人的交流を活発にし、能登地域の振興に寄与すること」で、空港の新たな利活用のため、年間を通してさまざまなイベントを開催しています。

能登地区の人口は、自然動態が出生0.6%・死亡▲1.3%、社会動態が転入2.3%・転出▲3.0%となっており減少が続いている状況です。この様な中、「郷土能登の良さに気づき、能登に住む誇りを感じる機会」を提供し、住民一人ひとりが今以上に過疎地能登の振興に関心を持っていただきたいと思います。

これらの事業は、“空港の存在価値を高める”活動であり、利用促進活動に側面的支援をするものと考えています。

◆事業に関わるスタッフ

この事業を実施するにあたっては、“広く多様な方々に関わっていただくこと”が大切だと考えており、石川県や空港ビル内の事業者のみならず、地元自治体、日本航空学園、能登各市町のグラウンドゴルフ協会などの各種協会と協力して実施しています。今年度は新たに「スーパーカーやクラシックカーの団体」にも協力していただきイベントを開催しました。今後も協力していただける方を増やしたいと考えています。

また、この事業に協力していただいているスタッフの方々や、出演者は、ほぼボランティアで協力をしていただいています。

◆実施事業

①空港関係者・地元自治体などが実施する大規模イベント

開港記念イベント、空の日フェスタ、クリスマスイベント

②各種協会・団体が実施する大規模イベント

のとサツツジフェスティバル、憧れの名車が能登空港にやってくる in 能登空港、
カサキコーヒーブレイクミーティング in 能登空港

③各種協会・団体が実施する中規模イベント

能登空港杯ゲートボール大会、グラウンドゴルフ大会、囲碁大会、高齢者スポーツ大会、ペタンク大会、
遊びのチャンピオン大会、ペットボトルロケット大会

④各種団体・空港関係者などが実施する小規模イベント

おらが故郷お国自慢、特設日本庭園でのお茶会、小学生書道展、のっぴー雪だるまコンテスト、MOA 美術展、
各種イベント など

◆空港や飛行機利用促進にはどのような効果があるか

この事業は空港からの能登の地域振興であり、飛行機利用促進の側面的支援として考えています。
具体的には、次の様な効果を期待しています。

①“地域と一体となって空港を使う”という姿勢の象徴

「地域と一体となって空港を使う」という姿勢の象徴的活動であり、啓発活動的要素があります。

②付加価値を与え、空港の価値を高める

従来型の空港に、地域が喜ぶ楽しみを提供し、空港の価値を高める。

③空港や飛行機利用を支援する気運・主体性・関心度を高め、無関心者を減らす

利用促進策だけでは、空港を盛り上げ、支えるという気運には繋がりにくいものです。それには、多方面からのアクションが効果的だと考えます。また、その気運が高まれば、飛行機を利用する可能性は高まります。

この事業は、広く多様な方々に関わっていただき、空港の存在を「他人事」ではなく「自分事」ととらえ、主体的になっていただくための切っ掛けの一つです。イベントという住民が参加しやすい事を題材としており、多くの人の気運・主体性・関心度を高め、無関心者を減らしやすいのが特徴です。

④地域住民と能登空港との距離感を縮める

旅行で初めての場所に行くとき、行きは時間が長く感じ、帰りは短く感じることはありませんか。実質的には大差が無いはずなのに、感覚的な距離感は大きく異なります。また、通勤経路は短く感じませんか。つまり、空港に来る回数が多いほど空港との距離感は短くなります。

⑤他の交通機関との競合

旅行に行く際に、他の交通機関ではなく、真っ先に「能登空港」という言葉を思い浮かばせ、他の交通機関を使おうとした際に、周囲の人が“なぜ能登空港を使わないの”と発言をする気運をつくることは大切なことです。それには、インパクトを与える企画や、反復継続してイベントを行うことにより、「能登空港」という言葉が出やすい環境を作り出すことが大切です。また、この事業は、報道、ポスター、オリジナル空港グッズの配布などで、広く伝える効果もあります。

⑥企画の工夫

例)「空港めぐりののっぴージャンケン」という企画では、ジャンケンカードをもらい、航空会社、レンタカーなど空港内の入居機関を回り、ジャンケンをし、勝つとアメ玉一つ、全勝すると「のっぴーどらやき」がもらえます。カードには「能登空港や各機関が地域に対してどのような役割を果たしているのか」を記載して紹介し、また、ジャンケンにはマスコットキャラクター「スカイのっぴー」を指で形づくったオリジナルな事をして楽しみました。この様に工夫をしながら企画立案を行っています。

◆事業の効果

おかげさまでイベント客は年々増加し、平成21年度の累計客数は1月末で約4万人(対前年同期約7,000人増)、平成18年度からの累計客数は16.6万人となっています。

①テレビ局のインタビューでのお客様の声

・クリスマス・プレイメント客(地元の人)の声

インタビュー「本来の使い方ではない空港でのイベント開催はどの様に思うか、飛行機は利用したことはあるか」

イベント客「能登は遊ぶ所がないのでありがたい。良いことだと思う。飛行機は利用したことはないが、イベントでは空港をよく利用しており、家族は楽しみにしている」これとほぼ同じ内容で、空港でのイベント開催は良いということだという意見が多く聞かれました。

- ・おらが故郷 お国自慢 太鼓団体出演者（地元の人）の声
インタビュー「空港でのイベント開催ほどの様に思うか」
出演者「空港での出演は、毎回楽しみにしている。空港という特殊な環境で演奏できることは嬉しいことだ」
- ・特設日本庭園でのお茶会客（首都圏からの航空旅行客）の声
インタビュー「空港でのイベント開催ほどの様に思うか」
旅行客「この様なイベントを知らない状態で空港に来た。このイベントに出会えて嬉しかった。忘れられない良い思い出になった」

②ゲートボール協会の自発的発展的な活動

協会が自発的に、能登空港杯ゲートボール大会の優勝チームと、首都圏のチームとの交流試合を行い、交流を広げ深める活動を実施

③おらが故郷 お国自慢 太鼓団体に出演依頼をしたときの団体代表の声

空港イベントの観客が少なくても、出演はボランティアでも良い。地域をあげて空港支援（利用促進）をしている中、空港を支える気持ちで参加したい。

能登空港
賑わい創出事業
のひとこま



空港駐車場での名車イベント



グラウンドゴルフ大会



なりきりパイロット



小学生書道展



おらが故郷 お国自慢



のっぴー雪だるま



カワサキコーヒーブレイク



クリスマスイベント